



(松原会場:松原町コミュニティハウス)

皆さんの声に お答えします

市は、市民の皆さんのご意見、ご提言を市政に反映させるため4月26日から6月1日まで17の会場で、町内会長、まちづくり委員等を対象に「市政懇談会」を開催しました。

今回の懇談会では、市政の運営と財政、行財政改革、今年度の予算を説明し、その後、意見交換を行いました。

今月号では各会場で寄せられた意見、提言の中から、主なものについて紹介します。

企画課に新たに設置された定住促進係は、どういった施策を進めていくのか。

定住促進係では、定住に向けた効果的な施策の検討と、関係各課との連携による情報発信を進めます。

市は、すでに定年帰農者の確保、遊休農地の活用による農地の荒廃防止など、農業に対するすべての相談窓口として昨年5月、農林課に「高梁市農業相談センター」を設置しています。10月には「高梁市空き農家・空き農地情報バンク制度」を設け、市内外で農地を必要とする人、市内に住みたいと考えている人への情報を集めています。

定住促進係は、農業にかかわる情報だけでなく、就業、教育、子育て支援に関するものなど定住希望者に役立つ情報を発信します。団塊の世代に限らず、子育て世代、単身若者世代も含め、高梁市に興味を持ち、「住んでみたい」と思う人のすべてを対象にしています。



市の財政状況等を説明する市長

市の財政状況は大変厳しいと聞くが、市債(市の借金)を減らす方策は。

市の借金を減らすためには次の2つの方法しかありません。
①新たな借金をしないこと。
②過去の借金を返済(繰上償還を含む)すること。

①については、生活基盤の整備や教育施設整備などを行い、市の行政サービスを進めていく上で、その年度の市税や交付税などの収入によって、これらの建設事業費を賄うことができれば新たな借金は必要ありません。

しかし、こうした事業費に充当可能な財源には限りがあります。不足する財源に、基金(市の貯金)を取り崩して充てる方法もありますが、基金にも限りがあるため、主には市債で調達することとなります。

その年度の市債発行額を、償還額(過去に借りた借金の元金の返済額)よりも少なくして、借金残高を減らしていきます。

このため、市では昨年度、「公債費負担適正化計画」を策定し、計画している建設事業費の見直しを行って市債の発行額を抑制し、市全体としての発行額に制限を設けました。

また、②については、平成19年度から年次的に繰上償還を行うこととしています。

老人クラブの補助金が減額になっている。行財政改革は分かるが、市民サービスは維持してもらいたい。

行財政改革の中で、少子化対策や子育て支援について充実させた部分もあります。

老人クラブの補助金は、合併後、高梁市老人クラブ連合会に一本化されており、将来的には同連合会の補助金のみが国の補助対象になります。その経過措置として各地域老人クラブ補助金を20万7000円から14万5000円に見直したものです。

行財政改革は、市役所内部の改革に重点を置いています。人件費が7割、事務的な内部経費が2割、残りの1割が市民の皆さんにかかわる部分となっています。

なお、老人福祉対策推進関係の一般会計予算は、昨年度は2億6000万円、今年度が3億1000万円であり、全体では増加していますので、ご理解いただきたいと思います。

全国各地でAED(自動体外式除細動器)が配置されているが、人が集まる市の施設にも置いてもらいたい。

AEDは、致命的な不整脈(心室細動等)に陥った傷病者の心臓の動きを正常なリズムに戻すため、除細動(電気ショック)を行う医療機器です。

救急車到着前にAEDを使用した場合、救急隊員や医師が到着してからAEDを使用するよりも、救命率が数倍も高いことが明らかになっています。

このことからAEDを多数配置するとともに、多くの住民がAEDに関する知識を持つことが非常に重要だとされています。

現在は市役所本庁舎、各地域局、高梁総合福祉センターなどに配置しており、今後、AED配置計画をつくって順次配置していくこととしています。